

## 2017(平成29)年度事業計画

## 1. 調査研究事業

事業名	事業計画等
懸賞論文の募集	大学等における交通運輸・観光に関する研究を促進するとともにその研究論文を活用することにより、九州圏における交通運輸・観光事業の発展及び地域社会の活性化に寄与することを目的として、懸賞論文を募集する。(継続事業)

## 2. 施設整備事業

事業名	事業計画等
九州圏における海運振興関連施設整備 (日本財団助成事業)	<p>(1)離島住民の民生の安定と福祉の向上に資するため、冷凍コンテナ、保冷コンテナ等を製作して旅客定期航路事業者へ管理委託する。</p> <p>冷凍コンテナ 15個</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・マルエーフェリー(株)(鹿児島～奄美～那覇航路) L6058×W2438×H2591mm 3個</li> <li>・マリックスライン(株)(鹿児島～奄美～那覇航路) L6058×W2438×H2591mm 1個 L3658×W2438×H2591mm 2個</li> <li>・奄美海運(株)(鹿児島～喜界～知名航路) L3658×W2438×H2591mm 3個</li> <li>・岩崎産業(株)(鹿児島～西之表航路) L3658×W2438×H2591mm 1個</li> <li>・十島村(鹿児島～十島～名瀬航路) L2438×W2991×H2438mm 2個</li> <li>・甑島商船(株)(いちき串木野市 串木野新港) L2000×W2100×H2100mm 1個</li> <li>・九州郵船(株)(博多～比田勝航路) L2700×W1640×H2300mm 1個</li> <li>・野母商船(株)(福江～青方～博多航路) L2550×W1800×H2438mm 1個</li> </ul> <p>(2)離島住民の福祉の向上のため、風雨防止用通路シェルター、簡易待合所、バリアフリー対応型タラップを製作し、離島航路の岸壁に整備し、旅客定期航路事業者へ管理委託する。</p> <p>風雨防止用通路シェルター 4基</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小値賀町(長崎県小値賀町 小値賀港ターミナル) L5000×W1610×H2250mm 3基 L3000×W1610×H2250mm 1基</li> </ul> <p>簡易待合所 1基</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・三島村(鹿児島県三島村 硫黄島港) L2500×W3000×H2600mm 1基</li> </ul>

事業名	事業計画等
九州圏における海運振興関連施設整備 (日本財団助成事業)	バリアフリー対応型タラップ 2基 ・種子屋久高速船(株) L5500×W1100×H556mm 1基(西之表市 西之表港) L5840×W1100×H556mm 1基(鹿児島県屋久島町 宮之浦港)

### 3. 広報啓発等事業

事業名	事業計画等
(1)機関誌「九州うんゆジャーナル」の発行	賛助会員その他関係者への交通運輸・観光等に関する情報提供・サービス向上を図るため九州うんゆジャーナルを発行、配布する。  2017 夏号 VoL.110 2017年 7月10日 発行予定 2017 冬号 VoL.111 2017年 12月10日 発行予定 2018 春号 VoL.112 2018年 3月10日 発行予定
(2)各種講演会・セミナー等の開催	交通運輸・観光に関する情報提供、普及啓発等を図るため各種講演会・セミナー等を開催する。  <b>講演会</b> 交通運輸・観光関係業界団体等と連携・共催して交通運輸及び観光の振興と近代化に関する講演会を企画・開催する。  <b>九州運輸コロキアム</b> 九州内外から講師を招き、交通運輸・観光全般について情報提供等を行うとともに意見交換・討議の場として開催する。  <b>a 九州運輸セミナー</b> ~熊本地震から1年 九州の観光復興~ * (一財)運輸総合研究所との共催 開催日時：2017年4月18日(火) 13:30~17:00 場 所：福岡市 ソラリア西鉄ホテル <第1部> <b>【講演】</b> 講 師：国土交通省九州運輸局 観光部長 伊地知英己氏 テーマ：九州における観光の現状について <b>【研究報告】</b> 講 師：東海大学観光学部観光学科 講 師 栗原 剛氏 テーマ：災害時における観光客対応の現状と課題 <b>【特別講演】</b> 講 師：日本通運(株) 業務部長 山本慎二氏 テーマ：熊本地震の災害支援物資対策と今後の課題 ~災害現場で何が起こっていたのか~ <第2部> <b>【パネルディスカッション】</b> テーマ：九州の観光復興に向けて

事業名	事業計画等
(2) 各種講演会・セミナー等の開催	<p>コーディネーター：(一財)運輸総合研究所 所長 山内弘隆氏</p> <p>パネリスト： 敬愛大学国際学部 教授 廻 洋子氏 (公財)九州経済調査協会 理事長 高木直人氏 九州旅客鉄道(株) 常務取締役 後藤靖子氏 阿蘇内牧温泉蘇山郷 館主 永田祐介氏 国土交通省九州地方整備局 港湾空港部長 堀田 治氏 国土交通省九州運輸局 観光部長 伊地知英己氏</p> <p><b>海事振興セミナー</b> 海事振興を目的として、特に海事に関する最新の情報提供や課題解決等のためのセミナーを開催する。</p> <p><b>a 第18回海事振興セミナー</b> *九州クルーズ振興協議会との共催 開催日時：2017年6月23日(水) 15:00～16:30 場 所：福岡市 福岡合同庁舎 新館7階 会議室 講 師：国土交通省九州地方整備局 港湾空港部長 堀田 治氏 テ ー マ：九州におけるクルーズ船の動向について</p> <p><b>企業経営基盤強化等セミナー</b> 関係業界団体と連携し、企業の経営基盤の強化等につながる最新の情報等を提供するため、時宜に応じたテーマ・内容によるセミナーを企画・開催する。</p>
(3) 次世代の海事産業を担うことになる小中学生等への啓発活動(海の子育成)	<p>九州の海事関係産業は、「一割経済」といわれる九州にあって、「造船アイランド」、「海事王国九州」、「海道九州」と称されるように、特に重要な産業であるにも拘わらず、市民の間では若年層にいたるほど、その重要性の理解が薄れつつある。</p> <p>九州においては、地理的な条件等から海事関係産業は引き続き地域経済維持・発展等のためにも重要な産業であり、これに見合った市民の認識や評価、さらには将来当該産業を支える優秀な人が集まるような活動を積極的に行っていくことが必要と考える。</p> <p>このため、現在、九州運輸局に設置されている「九州海事産業次世代人材育成推進協議会」と連携して、次世代社会を担うこととなる小・中学生を対象に、海事産業現場の見学会を実施することなどにより、海事産業の重要性等の認識や理解促進を図る。</p>
(4) 九州の交通・運輸に関する統計の整備	<p>九州圏における交通、運輸に関する統計資料を当センターホームページ上で公開する。(監修：九州運輸局)</p>
(5) バリアフリー啓発促進	<p>離島においては本土以上に高齢化の進展等が著しいにもかかわらず、未だハード及びソフトともに十分なバリアフリー化が進められていないのが現状である。</p> <p>このため、ハード面においては、行政の手の届かない、また、</p>

事業名	事業計画等
(5)バリアフリー啓発促進	<p>事業者で十分に対応できない部分のバリアフリー化の推進について、当センターが日本財団の助成によるバリアフリー対応型タラップ等を整備するなど、その一助となる活動を展開しているところであるが、ソフト面においても、バリアフリー実現のカギを握る船員や事務職員などの運航関係者、また一般市民(小中学生、乗船客など)を対象に、フェリー船内やターミナルを活用した、車椅子・視覚障害・高齢者などの疑似体験及びサポート体験をしてもらうことにより、離島航路におけるソフト面の一層のバリアフリー化を進めるために実施する。(継続事業)</p>
(6)海・島・船の魅力発掘プロジェクト in 平戸 (日本財団海と日本 PROJECT サポートプログラム)	<p>離島航路の3割が集中する九州では、本土から遠い近い、大きい小さいなど様々な島が存在しているが、島の共通の課題として、国民の海離れ、離島の子どもの海離れ、島離れが顕著になっていること、人口減で集落機能自体が成立たなくなっているところも出てきていること等への問題への対応がある。これら課題の解決の一助とするため、本事業は、第一に次世代を担う子ども達が海や島の生業、文化にふれ、我々の住む島の楽しさ素晴らしさを再発見する、第二に本事業を通じ、島に生きる大人達が、次の世代に島の宝である海の素晴らしさを引継ぐための検証と再認識を行うことを目的とし、この事業を、我々が目指す、島や海への人やモノの回帰の第一歩とすることを目標として実施する。</p> <p><b>海の仕事の学習会と船に大きな絵を描こう</b>  日程：2017年7月23日(日)  内容：  ・海の仕事の学習会  フェリーで平戸島と周辺離島をクルーズ。平戸島の宮之浦港で島の生業を学習。  ・船に大きな絵を描こう  乗船時には船の壁や床にチョークで思い思いの絵を描き、作品として情報発信する。  ・情報発信  スマートフォンアプリを活用し活動情報を投稿・共有する。  参加募集人数：350人(内子供200人)</p> <p><b>船に大きな絵を描いて海から花火を眺めよう</b>  日程：2017年8月5日(土)  内容：  ・船に大きな絵を描こう  フェリーで平戸島と周辺離島をクルーズ。乗船時には船の壁や床にチョークで思い思いの絵を描き、作品として情報発信する。  ・フェリーで海から花火を見よう  平戸港夏まつりの花火を船の上から鑑賞する。</p>

事業名	事業計画等
<p>(6)海・島・船の魅力発掘プロジェクト in 平戸 (日本財団海と日本 PROJECT サポートプログラム)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・情報発信 スマートフォンアプリを活用し活動情報を投稿・共有する。</li> </ul> <p>参加募集人数：350人（内子供200人）</p> <p><b>空より美しい海でキャンプ！ (ワクワクキャンプ、サバイバルキャンプ)</b></p> <p>日程：2017年8月8日～9日（火～水）</p> <p>内容：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・低学年ワクワクキャンプ 平戸島根獅子の海をベースに、集落が持つゲストハウスに宿泊し、海洋体験、食育体験を行う。</li> <li>・高学年サバイバルキャンプ 平戸島根獅子の突端にある岬（原生林を抜けて広がる海岸）で、電気もガスもトイレもない中、海を舞台に子供も大人も大自然の中で生きる自信をつける。</li> </ul> <p>参加募集人数：親子25組 計50人</p> <p><b>海と日本プロジェクト in 平戸の写真展と写真コンテスト</b></p> <p>日程：2017年9月23～30日</p> <p>内容：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・写真展及び写真コンテスト クルーズ参加者がスマートフォンアプリを使って共有した海の魅力ある写真や、次世代へ引継ぎたい景観やモノコトヒト、海での活動と子どもの笑顔が素敵に映っている写真を平戸市未来創造館で展示する。また、専門家や行政に写真を選定してもらってコンテストを行い、表彰する。</li> </ul>

2017( H 2 9 ) 年度 収支予算書

(公財)九州運輸振興センター (単位:円)

科 目	区 分	2017年度 予 算 額	2016年度 予 算 額	増 減
事業活動収支の部				
1 事業活動収入				
基本財産運用収入		3,000	7,000	4,000
基本財産利息収入		3,000	7,000	4,000
会 費 収 入		11,500,000	11,500,000	0
賛助会員会費収入		11,500,000	11,500,000	0
助成金等収入		86,770,000	151,600,000	64,830,000
日本財団助成金収入		86,770,000	151,600,000	64,830,000
施設整備事業助成金収入		62,870,000	64,010,000	1,140,000
海洋体験事業助成金収入		0	66,850,000	66,850,000
基盤整備助成金収入		20,640,000	20,740,000	100,000
海・島・船魅力発掘プロジェクト 事業助成金収入		3,260,000	0	3,260,000
負 担 金 収 入		8,090,000	7,370,000	720,000
施設整備事業負担金収入		7,480,000	7,370,000	110,000
海・島・船魅力発掘プロジェクト 事業負担金収入		610,000	0	610,000
広報啓発等事業収入		90,000	90,000	0
機関誌広告収入		90,000	90,000	0
雑 収 入		2,000	13,000	11,000
受取利息収入		2,000	13,000	11,000
事業活動収入計		106,455,000	170,580,000	64,125,000

(単位：円)

科 目	区 分	2017年度 予 算 額	2016年度 予 算 額	増 減
2	事業活動支出			
	事業費支出	101,756,500	166,121,200	64,364,700
	調査研究事業費支出	740,000	740,000	0
	懸賞論文募集費支出	740,000	740,000	0
	施設整備事業費支出	70,350,000	71,380,000	1,030,000
	広報啓発等事業費支出	9,700,000	73,180,000	63,480,000
	機関誌作成費支出	3,000,000	3,000,000	0
	講演会・セミナー等事業費支出	2,200,000	2,600,000	400,000
	講演会、九州運輸コロキウム 海事振興セミナー、企業経営 基盤強化等セミナー			
	海の子育成事業費支出	300,000	400,000	100,000
	交通運輸統計整備費支出	20,000	30,000	10,000
	バリアフリー啓発促進事業費支出	100,000	300,000	200,000
	海洋体験事業費支出	0	66,850,000	66,850,000
	海・島・船魅力発掘プロジェクト 事業費支出	4,080,000	0	4,080,000
	事業管理費支出	20,966,500	20,821,200	145,300
	給与費支出	14,154,400	13,920,000	234,400
	役員給与費支出	5,376,800	5,359,200	17,600
	職員給与費支出	8,777,600	8,560,800	216,800
	福利厚生費支出	2,705,400	2,592,000	113,400
	事務費支出	4,106,700	4,309,200	202,500
	通信運搬費支出	324,000	372,600	48,600
	消耗品費支出	202,500	267,300	64,800
	印刷製本費支出	202,500	243,000	40,500
	水道光熱費支出	194,400	243,000	48,600
	賃借料支出	2,251,800	2,227,500	24,300
	新聞図書費支出	145,800	162,000	16,200
	交際費支出	81,000	81,000	0
	保険料支出	8,100	8,100	0
	租税公課支出	48,600	56,700	8,100
	雑支出	648,000	648,000	0
	管理費支出	6,616,500	6,678,800	62,300
	給与費支出	3,538,600	3,480,000	58,600
	役員給与費支出	1,344,200	1,339,800	4,400
	職員給与費支出	2,194,400	2,140,200	54,200
	福利厚生費支出	634,600	608,000	26,600

(単位：円)

科 目	区 分	2017年度 予 算 額	2016年度 予 算 額	増 減
旅費交通費支出		900,000	1,000,000	100,000
事務費支出		1,543,300	1,590,800	47,500
通信運搬費支出		76,000	87,400	11,400
消耗品費支出		47,500	62,700	15,200
印刷製本費支出		47,500	57,000	9,500
水道光熱費支出		45,600	57,000	11,400
会議費支出		580,000	580,000	0
賃借料支出		528,200	522,500	5,700
新聞図書費支出		34,200	38,000	3,800
交際費支出		19,000	19,000	0
保険料支出		1,900	1,900	0
租税公課支出		11,400	13,300	1,900
雑支出		152,000	152,000	0
事業活動支出計		108,373,000	172,800,000	64,427,000
事業活動収支差額(A)		1,918,000	2,220,000	302,000
投資活動収支の部				
1 投資活動収入		0	0	0
投資活動収入計		0	0	0
2 投資活動支出				
特定資産取得支出		343,200	343,200	0
退職給付引当資産取得支出		343,200	343,200	0
投資活動支出計		343,200	343,200	0
投資活動収支差額(B)		343,200	343,200	0
財務活動収支の部(C)		0	0	0
予備費支出(D)		2,093,620	961,500	1,132,120
当期収支差額(A + B + C - D)(E)		4,354,820	3,524,700	830,120
前期繰越収支差額(F)		4,354,820	3,524,700	830,120
次期繰越収支差額(E + F)		0	0	0